

## 雀たづねて

お手々に杖つき、茶の頭巾、  
舌切雀のお爺さん。

雀をたづねて、田舎路。

「雀のお宿は、ここかいな」

知らずに、来てゐた山の中。

あちらも、雀に竹の藪。

こちらも、雀に笹の藪。

あちらも、こちらも、藪雀。

いつか、お山は月がさし、

お腰はいたむし、埒あかず。

それでも、雀のお爺さん。

やっぱり、「雀はどこかいな」

「子供達の歌」第3  
集所載、初放送大  
正14年7月。「中山  
作曲目録・年譜」  
山頁にくわしい紹  
介がある

## 山は夕焼

山は夕焼、さびしいな。

鶏さがしに、出てきたが、

穂に穂が揺れて、また揺れて、

山は、いちめん、芒の穂。

明日は、北風、木の葉風。

「子供達の歌」第3集所載、大正14年10月6日、他の  
小田島樹人作曲のものとおわせ初放送

## 早春

林の奥に、そよかぜ起ち、

小鳥の夢を、そよそよさまし、

緑の木の芽、さやさや揺り。